

『アメリカの学校と日本の学校』

梶原学園 外国語指導助手(ALT)：カーター・フロスト

8月に梶原町にやってくる以前、私はアメリカで2年間教員の仕事に就いており、主に中学生に英語文学を教えていました。梶原学園でALTの仕事始めて以降、私はアメリカの学校と日本の学校の違いに驚かされてばかりです。特に生徒の言動や校則に驚かされています。今回は、私が気付いたアメリカの学校と日本の学校の沢山の違いやいくつかの類似点について焦点を当てたいと思います。

まず初めに、日本の中学生と異なり、アメリカの中学生は制服を着ません。望ましい服装についてある程度の決まりはあるものの、生徒たちは大抵自由に好きな服を着ています。さらに、アメリカの生徒や教員は校内に立ち入るときに靴を履き替えず、学校の内外を問わず同じ靴を履いています。一部の読者の方には驚くべきことかもしれません。普段使いの靴とは別に仕事用の靴を買わなければならなかったことは私にとって驚きでした！

その他の文化間の大きな違いは、アメリカでは生徒が校内を掃除するという文化がないことです。生徒にも教員にも「掃除の時間」はなく、それぞれの学校に校内環境の維持管理チームがあります。個人的には、生徒自身に環境整備をさせるという日本の学校の文化をアメリカの学校も見習うべきだと思います。それは課された義務をこなすということ学ぶためだけでなく、普段自分たちが使っている共有空間への敬意を認識することにも繋がります。私は毎日昼食前に生徒たちと一緒に校内を掃除することを楽しんでます。

昼食の時間について言えば、教員が生徒と一緒に昼食を取ることに驚きました。日本の生徒のように、アメリカの生徒も学校の食堂で昼食を取ります。しかし、アメリカの生徒が教員と一緒に昼食を取ることはなく、教員は生徒と離れて職員室で食事するのが標準です。アメリカの生徒はお弁当を持ってくるのが許可されており、食堂で座席が決まっているということもありません。どのくらいの日本人がこのアメリカンスタイルに好意を示すか気になります。それでも私は梶原学園で生徒と一緒に食事を取ることを楽しんでます。梶原学園の給食は最高です！

他にもアメリカの学校と日本の学校の間にはいくつかの特筆すべき違いがあります。

- ・日本は学級担任制だがアメリカはそうではない。また、日本の生徒は1日のほとんどを自分たちの教室で過ごすが、アメリカの生徒は授業ごとに他の教室に移動する。アメリカの教員は自分専用の教室を持っている。
- ・外国語学習のため、アメリカの生徒は大抵スペイン語、フランス語、ドイツ語の中から学びたい言語を選択する。
- ・アメリカの学校の一年は8月に始まり5月に終わるので、アメリカの生徒には3カ月の夏休みがある！

一般的に、アメリカの生徒は日本の生徒よりも率直です。彼らはより気軽に気持ちを表現し、教員とも砕けた雰囲気です。そして、日本の生徒が調和や協調性を大切にする傾向がある一方で、アメリカの生徒は自立や自己表現を重視します。私は双方お互いに学ぶところがあると考えています！



アメリカの学校と日本の学校の違いについて、あなたはどのように思いますか？ご意見や考えを是非、[carterfrostalt@gmail.com](mailto:carterfrostalt@gmail.com)へのメールで共有してください。